

女性医師が仕事と家庭を両立しながら、キャリア向上を図るための支援策を話し合うシンポジウム「急増する女性医師の未来像」が四日、東京都内で開かれ、「短時間勤務など柔軟な働き方を認めて」と訴えた。

最近新たに医師になる三人に一人が女性。だが出産や育児を機に離職する女性も多く、医師不足の一因

### 仕事を家庭も両立を

## 女性医師支援でシンポ

シンポジウムでは、女性が医師を続けるには「就労形態の柔軟化と復職のため再教育が必要」と課題を整理。その上で「常勤医にも短時間勤務や週四日などの勤務体系を認めるなど、様々な働き方を選べる仕組みが必要」「学生のうちに

になっている。

シンポジウムでは、女性が医師を続けるには「就労形態の柔軟化と復職のため再教育が必要」と課題を整理。その上で「常勤医にも短時間勤務や週四日などの勤務体系を認めるなど、様々な働き方を選べる仕組みが必要」「学生のうちに

キャリア教育を行い、離職を防ぐのも重要」などと議論を交わした。

また「女性だけを支援する制度では結局女性の自身は狭いまま。男性も含めた医療従事者全体が、育休を取ったりできるような制度にすべきだ」との指摘もあった。

### NPO 柔軟な働き方訴え

シンポジウムは特定非営利活動法人(NPO法人)「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」(大阪市)が主催した。同会が今年から始めた「女性医師にやさしい病院」評価制度も紹介され、滝野敏子代表理事は「評価制度が優秀な人材の確保につながれば、患者にとってもメリットがある」と指摘した。